企画展示

あいちゆかりの人物伝 城山三郎展

経済小説のパイオニア、城山三郎ゆかりの資料を多数展示。
その偉大な足跡をたどる回顧展！

会場　愛知県図書館　2階展示エリア
期間　2024 年 10 月 11 日(金)～12 月 11 日(水)
観覧　無料
（資料提供　文化のみち二葉館）

11.27 あいち県民の日

城山三郎展　-あいちゆかりの人物伝-

　愛知が生んだ作家城山三郎は、戦後新進気鋭の経済学者として地元の大学で教鞭を取りつつ、その作家活動をスタートさせました。日本において「経済小説」という新たな文学ジャンルを開拓するとともに、歴史小説、戦記小説の分野でも多くの作品を残しています。それらの作品を通して城山は、「危機の時代における“リーダーシップ”のあり方」と、「“組織と人間”の問題」を一貫して問い続けました。不合理に対する反骨心と、人間に対する限りない興味を生涯持ち続けた作家城山三郎。没後 17 年目に当たる今年、時代とともに益々高まる城山文学の意義を改めて振り返ってみたいと思います。

◆城山三郎略歴◆

1927(昭和 2)年	名古屋市中区朝日町 2-6（現・中区錦 3-14）で生まれる。本名は杉浦英一。生家は室内装飾業を営む。
1940(昭和 15)年	名古屋市八重尋常高等小学校卒業。名古屋商業学校に入学。
1945(昭和 20)年	名古屋商業学校卒業。海軍特別幹部練習生として、広島県呉の大竹海兵団に送り込まれ、終戦を迎える。
1946(昭和 21)年	東京商科大学（現・一橋大学）に入学。
1952(昭和 27)年	一橋大学卒業。愛知学芸大学（現・愛知教育大学）の岡崎分校に助手として赴任。「景気論」を担当する。
1954(昭和 29)年	小山容子(当時松坂屋の秘書課勤務)と結婚。
1956(昭和 31)年	雑誌『近代批評』に処女作「生命の歌」を発表。
1957(昭和 32)年	城山三郎のペンネームで書かれた「輸出」が第 4 回文学界新人賞を受賞。(ペンネームは、3 月に**城山**八幡宮の近くの千種区楠元町に転居したことから名付けられた。) 12 月、名古屋から神奈川県茅ケ崎に居を移す。
1959(昭和 34)年	「総会屋錦城」で第 40 回直木賞を受賞。 伊勢湾台風に遭遇。朝日新聞社の依頼で現地取材し、被害の大きさに衝撃を受ける。
1963(昭和 38)年	愛知学芸大学を退職する。(退職時は専任講師)
1964(昭和 39)年	『硫黄島に死す』で文藝春秋読者賞を受賞。
1975(昭和 50)年	『落日燃ゆ』で毎日出版文化賞、吉川英治文学賞を受賞 。
1980(昭和 55)年	城山三郎全集(新潮社)の刊行始まる。14 巻で翌年完結。
1996(平成 8)年	菊池寛賞受賞。
2000(平成 12)年	妻容子死去。名古屋市へ蔵書・資料の寄贈を開始。 （寄贈は合計 3 回に渡り約 2 万 5 千点にのぼる。）
2003(平成 15)年	経済小説のジャンルを確立した功績で、朝日賞受賞。
2007(平成 19)年	間質性肺炎により死去。享年 79 歳。

◆展示資料◆

『毎日が日曜日』始め　直筆原稿
『落日燃ゆ』始め　取材ノート
テレビ・ドラマ台本
小学生時代の作文と絵
自筆の水彩スケッチ、色紙
写真　ほか多数

◆資料提供/文化のみち二葉館◆

〈貸出可能な図書〉

『冬の派閥』(新潮社)
『黄金の日日』(新潮社)
『官僚たちの夏』(新潮社)
『雄気堂々(上)(下)』(新潮社)
『学・経・年・不問』(文芸春秋)
『城山三郎全集(14 巻)』(新潮社)
『城山三郎伝』(ミネルヴァ書房)
『気骨の人城山三郎』(扶桑社)
始め 約 150 点

愛知県図書館

名古屋市中区三の丸 1-9-3　　Tel.（052）212-2323

〈交通案内〉

【地下鉄】鶴舞線又は桜通線「丸の内駅」下車後、8 番出口から徒歩 8 分

【市バス】名古屋駅バス停 8 番のりば
幹名駅 1 系統・名駅 14 系統で、「愛知県図書館」バス停下車後、徒歩 3 分

【なごや観光ルートバス「メーグル」】
「四間道」バス停下車後、徒歩 3 分

※駐車場は有料です。台数に限りがありますので、公共交通機関での来館にご協力をお願いします。